



透明感ある「外観」は、街並みのランドマークとなっている

街並みのランドマークとなり、人と街を元気にする病院

札幌清田病院 | 設計・監理：サン設計事務所

人口増加と高齢化の進む札幌市清田区の中核病院として、急性期医療のみならず「緩和ケア」「在宅医療」に必要な医療環境を積極的に整備し、地域の医療機関や福祉施設およびコミュニティとの連携を図ることで、地域に愛される病院づくりを目指した。病院が街づくりの核として信頼される医療環境を追求し、地域住民の健康で安心な生活を支えることで「人も街も元気にする」病院となっている。

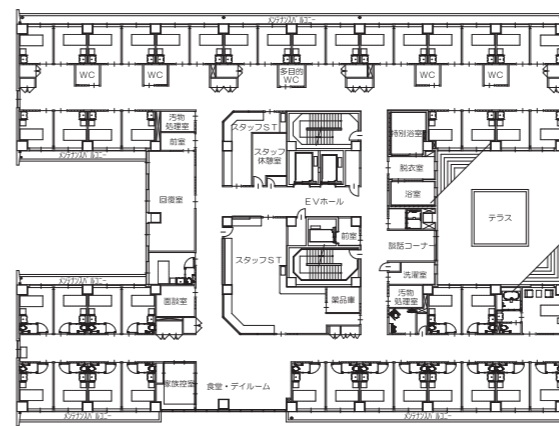
「患者が安心できる」「家族がくつろげる」「職員が働きやすい」を設計方針として、ホスピタリティとアメニティの高い病院施設を追求した。外来機能を全て1階に集約し、患者サービスの向上を目指し、病棟はスタッフステーションを中心に配置し、エレベーターホール近くに設け看護拠点と受付機能を両立した。開放的なオープンカウンターは患者がいつでもスタッフの動きを身近に感じ、見守られている安心感がある。患者と家族がくつろげる空間として、十分な広さを備えた緩和ケア病棟の家族室や、緑化を施した屋上テラスを設けた。スタッフ動線の短縮と業務効率化を図った施設計画は、より多くの時間を医療サービスに充てることで患者満足度を向上。また専用の休憩室や職員食堂を設け、スタッフのアメニティにも配慮した。国道沿いの建物配置は、周辺街並みに調和しながらも透明感がありシャープな外観デザインで新しい風景を創出する。地中熱利用や井水による地下水ろ過システムによる自然エネルギーの活用は、ライフサイクルコストを抑制している。敷地の高低差を活かした建築計画は、地下部分の掘削土を最小限とした経済的な造成。スケルトン・インフィルを概念にした建物は、改修や更新時に柔軟な対応が可能な施設基盤を構築している。本施設は「平成26年度 北海道福祉のまちづくり賞(公共的施設部門)」を受賞した。

(吉岡雄一、飯田 満)

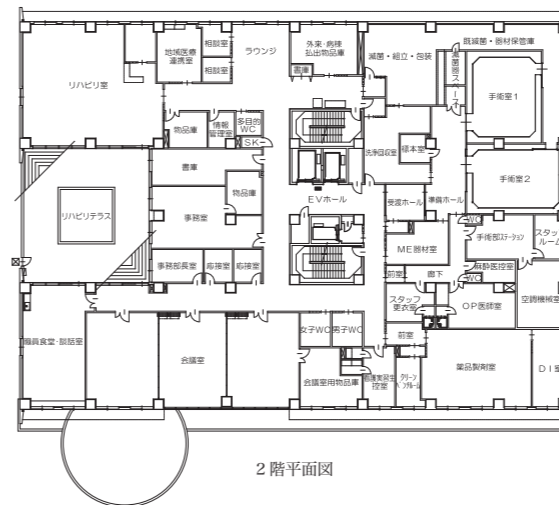


上 | 「サービスヤード」は高低差を活かし、来院者と交差しない動線とした
下 | ホスピタルモールと一体化した、明るく開放感のある「待合ホール」

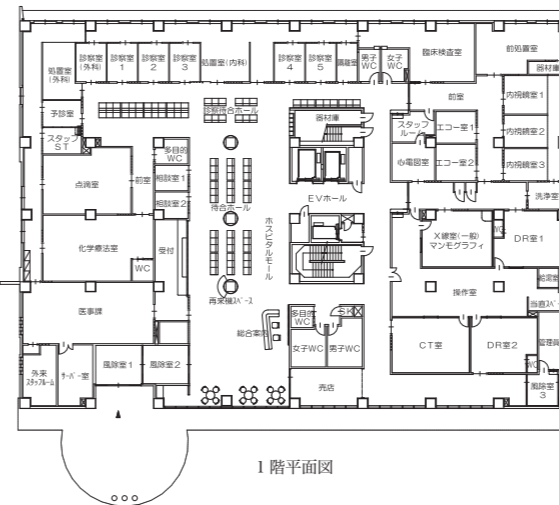
所在地	札幌市清田区真栄1条1丁目1番1号	敷地面積	5,388.72㎡
建築主	社会医療法人 札幌清田病院	延床面積	8,891.91㎡
施工	大木建設	病床数	109床
構造・規模	RC造 地上5階 地下1階	竣工	2013年11月



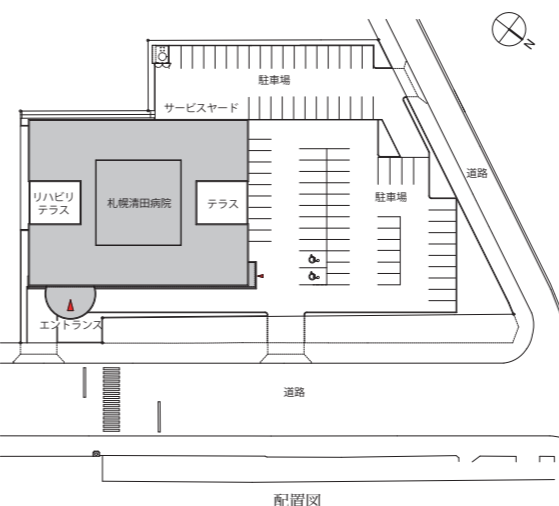
3階平面図



2階平面図



1階平面図



配置図



「緩和ケア病棟」は、落ち着いた環境の最上階に配置



「食堂・ダイルーム」は、眺望の良い国道側に配置



屋上緑化した「リハビリテラス」は、療養生活に潤いを与える



広さを確保した「全個室」病棟は、室内にトイレと洗面台を設置